

平成26年度スーパーグローバルハイスクール構想の概要

指定期間	ふりがな	えひめけんりつまつやまひがしこうとうがっこう				②所在都道府県	愛媛県		
26～30	①学校名	愛媛県立松山東高等学校							
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模			
	1年	2年	3年	4年	計	普通科 1年 361名 2年 356名 3年 357名 合計 1,074名			
普通科	361	80	80		521				
	全生徒	SGコース	SGコース						
⑥研究開発構想名	東高 がんばっていきましょい ーALL愛媛で育てる世界に羽ばたく人材ー								
⑦研究開発の概要	ア グローバル・リーダーを育成するための課題研究プログラム開発 イ 課題研究のための資質・能力育成カリキュラム開発 ・英語ディスカッション力・ディベート力等の高度な語学力の育成 ・内容言語統合型学習の導入などによる全ての教科等での言語活動の充実 ウ 学校環境のグローバル化 エ 愛媛県の力を結集した愛媛型産官学連携体制の構築								
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>輝かしい伝統を受け継ぎ、新たな創造を切り拓く、人間的魅力のあるグローバル・リーダーの育成</p> <p>&lt;育成する人材像&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の持続可能な発展に貢献する意欲と深い教養を身に付けた人材</li> <li>・「明教」185年の英知（問題解決力・コミュニケーション能力等の国際的素養）を持つ人材</li> <li>・日本人のアイデンティティを持ち、愛媛や日本の魅力を世界に発信する人材</li> </ul> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>愛媛県は、本格的な人口減少社会の到来と急速な高齢化を迎え、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○近隣アジア諸国をはじめとする世界の成長の取り込み</li> <li>○世界の発展に寄与する新たな資源、付加価値を創出できる産業力の構築</li> <li>○誇れるアイデンティティ、良質な生活環境、豊かな自然という宝の継承が課題となっている。</li> </ul> <p>グローバル・リーダーを育成するための課題研究プログラム開発、課題研究のための資質・能力育成カリキュラム開発、学校環境のグローバル化、愛媛県の力を結集した愛媛型産官学連携体制の構築などの研究開発に取り組むことにより、愛媛県のリーダー育成校として、世界の持続可能な発展に貢献する意欲と深い教養、問題解決力・コミュニケーション能力等の国際的素養を持ち、輝かしい伝統を受け継ぎ、新たな創造を切り拓く、人間的魅力のあるグローバル・リーダーを育成できると考える。</p> <p>また、本校は前身の松山藩校・明教館設立から185年、愛媛県最初の中等教育機関である旧制松山中学校設立から135年の歴史を持つ伝統校であることから、その発信力により愛媛県の教育改革にリーダーシップを果たすことができると考える。</p> <p>(3) 成果の普及</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○校内成果発表会（年間3回） ○えひめスーパーハイスクールコンソーシアム</li> <li>○坂の上の雲ミュージアムでのポスターセッション ○国際シンポジウム（3年次から）</li> <li>○学校ホームページへの掲載（日本文・英文） ○地元CATVの活用</li> <li>○愛媛県高校国際教育生徒研究発表会 ○愛媛県高教研各教科等部会</li> <li>○SGH指定校との連携 ○同窓会</li> </ul>							

<p>⑧ -2 課 題 研 究</p>	<p>(1) 課題研究内容        (アイデンティティとグローバル)        ・ 明治の松山・松山中学から見たグローバル        (アジアと愛媛の企業)        ・ 愛媛の企業がグローバル化を進めるための課題と克服方法        (世界の持続可能な発展のために)        ・ 愛媛の企業のグローバル化の推進                      ・ 持続可能な社会づくり        (例) グローバル化の課題とその克服方法                      (例) アジアの海岸の開発と環境 等        ・ グローバル化への対応    ・ グローバル時代における共生の実現        (例) テクノロジーと経済 等    (例) 国際社会と多民族共生 等</p> <p>(2) 実施方法・検証評価        教育課程：総合的な学習の時間「グローバル明教」(1・2年各2単位、3年1単位)        実施方法：1年、2・3年SGコースを対象に、グループワーク、ディスカッション、        論文作成、プレゼンテーション、国内外フィールドワークなどによる探究型学習を        実施する。        連携先：愛媛大学、東京大学社会科学研究所、慶応大学商学部、いよぎん地域経済        研究センター、愛媛の海外進出企業、坂の上の雲ミュージアム 等        海外フィールドワーク、現地高校・大学での交流学习：(平成26年度)住友化学、        住友重機械工業、住友金属鉱山、住友林業、三浦工業、井関農機のアジア拠点、        及び同拠点近隣の大学・高校、フィリピンの企業・大学・高校        検証評価：運営指導委員会評価、連携機関評価、生徒・保護者評価、学校自己評価</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等        教科：情報 科目：情報の科学 単位数1単位(標準単位数2単位)：1年生全生徒        教科：保健体育 科目：保健 単位数1単位(標準単位数2単位)：2年生SGコース</p>
<p>⑧ -3 上 記 以 外</p>	<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価        ○ 高度な語学力育成(坊っちゃんタイム・英語)        ・ 英語・学校設定科目「DD(Discussion&amp;Debate)Ⅰ・Ⅱ」・英語担当教員海外派遣(県教委)        Discussion&amp;Debate 力育成、高度語学検定取得、英語ディベート・弁論大会参加        ○ 言語活動の充実(坊っちゃんタイム・各教科、特別活動)        ・ 内容言語統合型学習(※教科を非母語で学ぶことにより、教科知識・語学力・思考力        ・ コミュニケーション力を統合して育成する学習方法 ※担当教員配置(県教委))：        (国語)世界の言語で読む日本文学(保体)オリンピックムーブメント(芸術)芸術        鑑賞(家庭)「和食」の基本(HR)英語俳句甲子園 など        ・ 課題研究との連携：(地歴)松山東高の歴史(数学)データの分析(理科)実験等の        充実(情報)情報モラル        検証評価：CEFR B1以上の語学検定取得者数、英語ディベート大会等の入賞者数、運        営指導委員会評価、連携機関評価、生徒・保護者評価、学校自己評価</p> <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等        英語・学校設定科目「DDⅠ」(1年全)「DDⅡ」(2年SGコース)各1単位</p> <p>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備、教育課程課外の取組内容・実施方法        ○ SGH部(部活動)：模擬国連、ビジネス系コンテストやコンクール参加        ○ 海外留学の促進と留学生の受入：グローバル人材育成推進事業(県教委)による海外        留学促進、異文化理解促進        ○ ハワイ大学・イオラニ高校との交流：えひめ高校生ハワイ派遣事業(愛媛県・愛媛県        国際交流協会)による相互の異文化理解と持続的な交流の基盤づくり        ○ ICTの活用：スカイプ・テレビ会議システムでの国内外大学・高校・企業との交流        学習、世界の大学のオンライン講座受講、課題研究や坊っちゃんタイムでの活用</p> <p>(4) 幹事校としての取組(該当する場合のみ記入)</p>
<p>⑨その他 特記事項</p>	<p>※⑧-3(1)は、えひめ学力向上チャレンジハイスクール事業(県教委)として実施する。</p>

ふりがな	えひめけんりつまつやまひがしこうとうがっこう	指定期間	26～30
学校名	愛媛県立松山東高等学校		

## 平成26年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(30年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数									
a	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	340 人
	SGH対象生徒以外:	— 人	270 人	人	人	人	人	人	280 人
目標設定の考え方: 現在25%程度だが、第1学年で約50%に上昇させ、第2・3学年ではSGコース生徒160人は100%、それ以外の生徒も約50%を目指す。【学校全体(第1～3学年)の目標】									
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数									
b	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	210 人
	SGH対象生徒以外:	70 人	12 人	人	人	人	人	人	84 人
目標設定の考え方: 平成24年度第2学年の海外修学旅行参加率が約15%、今年度の海外研修等が1%程度であることから、第1学年で約15%、第2・3学年ではSGコース生徒160人は100%、それ以外の生徒の約15%が自主的に留学又は海外研修に行くようになることを目指す。【学校全体(第1～3学年)の目標】									
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合									
c	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	100 %
	SGH対象生徒以外:	— %	52 %	%	%	%	%	%	70 %
目標設定の考え方: 現在52%程度であるが、2・3年SGコース生徒は100%、それ以外の生徒も事業の波及効果により、70%に高まる。【第3学年の目標】									
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数									
d	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	30 人
	SGH対象生徒以外:	13 人	11 人	人	人	人	人	人	17 人
目標設定の考え方: 現在1%程度であるが、第1学年で約3%、第2・3学年ではSGコース生徒160人の約10%が入賞し、それ以外の生徒も事業の波及効果により、約3%の生徒が入賞することを目指す。【学校全体(第1～3学年)の目標】									
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合									
e	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	90 %
	SGH対象生徒以外:	— %	57 %	%	%	%	%	%	70 %
目標設定の考え方: 現在57%であるが、英検準2級レベルの生徒が約31%程度いることから、SGコースでは、このレベルの生徒の全てが英検2級レベル以上になることを目指す。SGコース以外でも、英検準2級レベルの生徒の4割以上を英検2級以上のレベルに向上させる。【第3学年の目標】									
(その他本構想における取組の達成目標)									
f	SGH対象生徒:								
	SGH対象生徒以外:								
目標設定の考え方:									

1' 指定4年目以降に検証する成果目標

		24年度	25年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	目標値(30年度)
国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合									
a	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	100 %
	SGH対象生徒以外:	67 %	67 %	%	%	%	%	%	80 %
目標設定の考え方: 現在67%程度であるが、SGコース生徒は100%、SGコース以外の生徒は80%程度を目指す。【第3学年の目標】									
海外大学へ進学する生徒の人数									
b	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	20 人
	SGH対象生徒以外:	0 人	0 人	人	人	人	人	人	3 人
目標設定の考え方: SGコース80人の生徒の約25%が、SGコース以外の生徒280人の約1%も海外大学に進学することを目指す。【第3学年の目標】									
SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合									
c	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	100 %
	SGH対象生徒以外:	-	-	%	%	%	%	%	100 %
目標設定の考え方: 1年次に全生徒が大学との連携をして課題研究をすることから、全生徒が影響を受けることを目指す。【第3学年の目標】									
大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数									
d	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	80 人
	SGH対象生徒以外:	-	-	人	人	人	人	人	30 人
目標設定の考え方: SGコース卒業生徒80人の100%が、SGコース以外の卒業生徒280人の約10%が大学在学中に留学又は海外研修に行くことを目指す。【第3学年の目標】									

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(30年度)
課題研究に関する国外の研修参加者数								
a	0 人	0 人	人	人	人	人	人	136 人
目標設定の考え方: G明教Ⅰの海外企業拠点巡検4班×7人+G明教Ⅱの海外研修4回×7人+SGHコース海外研修を兼ねる修学旅行80人【学校全体(第1~3学年)の目標】								
課題研究に関する国内の研修参加者数								
b	0 人	0 人	人	人	人	人	人	520 人
目標設定の考え方: 第1学年全生徒360人+第2・3学年SGコース生徒160人【学校全体(第1~3学年)の目標】								
課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数								
c	0 校	1 校	校	校	校	校	校	26 校
目標設定の考え方: ハワイ・イオロニ高校・ハワイ大学+G明教Ⅰの海外企業拠点巡検4班×2校(大学・高校)+G明教Ⅱの海外研修4回×3校(大学・高校)+SGHコース修学旅行1コース×4校【学校全体(第1~3学年)の目標】								
課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
d	0 人	8 人	人	人	人	人	人	615 人
目標設定の考え方: 帰国・外国人講師:9人×35回、講演会講師講師:4人×1回、運営指導委員:2人×4回、運営支援委員2人×12回、課題研究講師:22人×8回、課題研究TA:22人×4回【学校全体(第1~3学年)の目標】								
課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
e	2 人	2 人	人	人	人	人	人	121 人
目標設定の考え方: 第1学年(企業訪問6社×2回×3人、海外研修1回×3人)、第2学年(海外研修企業訪問3回×3人、修学旅行企業訪問1社×3人)、いよぎん地域経済研究センター:企業訪問延べ20回×2人、講演会講師:2人×1回、運営指導委員:7人×4回【学校全体(第1~3学年)の目標】								
グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数								
f	38 人	35 人	人	人	人	人	人	250 人
目標設定の考え方: 第1学年で約10%、第2・3学年でSGコース生徒100%、それ以外の生徒の約10%【学校全体(第1~3学年)の目標】								
帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)								
g	1 人	3 人	人	人	人	人	人	25 人
目標設定の考え方: AFS等と連携し各学年約3名の留学生を受け入れる体制を構築する。海外交流校26校の約2割の学校から、各3人程度が本校へ来校する。【学校全体(第1~3学年)の目標】								
先進校としての研究発表回数								
h	0 回	0 回	回	回	回	回	回	22 回
目標設定の考え方: 愛媛県高教研各教科(9教科)部会・県教育課程研究集会での成果発表+愛媛県高校国際教育生徒研究発表会+国際シンポジウム+成果発表会・海外巡検報告会・ポスターセッション各3回+えひめSHコンソーシアム【学校全体(第1~3学年)の目標】								
外国語によるホームページの整備状況								
i	○整備されている △一部整備されている ×整備されていない							
	×	×						○
目標設定の考え方: 平成26年度より英文ホームページを設置する。								
(その他本構想における取組の具体的指標)								
j								
目標設定の考え方:								

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
全校生徒数(人)	1,107	1,074					
SGH対象生徒数							
SGH対象外生徒数							